

受 令和 8 年 6 月 2 日
付 午前・午後 9 時 00 分

一般質問（代表・個人） 通告書

令和 8 年 6 月 2 日

尾張旭市議会議長 殿

氏 名 山下 幹 雄

尾張旭市議会会議規則第 50 条第 1 項の規定により 12 月定例会において
別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 5 件

2 質問方法

<input checked="" type="radio"/>	1 回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項（大項目）ごとの一問一答
<input type="checkbox"/>	1 回目から 質問事項（大項目）ごとの一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



質問事項 No. <u>2</u>	食料品等物価高騰対策支援事業（バナラV i s aギフトカード 配付事務）の進捗について
	<p>国主導の経済対策に伴う「バナラV i s aギフトカード」の給付についても、現場では相当な混乱が生じているようだ。</p> <p>本来、DX（デジタルトランスフォーメーション）は「便利にするための手段」であるべきだが、今回のように「手段（プリペイドカード）」が「目的（市民の消費）」を追い越してしまい、結果として使い慣れない高齢者を中心に「デジタルデバインド（情報格差）」という形で不公平感を生んでしまっている状況を確認している。</p> <p>既に配付そして利用が始まっている中で、今からでも市民の納得感（コンセンサス）を再構築し、不満を「安心」に変えるための具体的なアクションが必要と考える。</p> <p>そこで、下記提案を示すが、行政としての考えを尋ねる。</p> <p>(1) 「使い方が分からない」を解消する即効アクションについて 「支援コーナー」の設置。行政内、協力量販店、シニアクラブにおける講座等のアクションについて伺う。</p> <p>(2) 「端数が使いにくい」という不満への対策</p> <p>(3) コンセンサス再構築のための「行政の説明責任」 なぜ、この事務を選択したかを全ての市民に対し、率直にそして丁寧に伝える努力が必要ではないか。</p> <p>(4) 今後に向けてのアンケートの実施について 事業途中にあっても市民の思いを数値化して、対策に生かすべきではないか。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

